神奈川県考古学会

考古かながわ 第15号

1998年10月15日

モグラの独り言

神奈川県考古学会総務
小川裕久

この頃の考古学ブームは目をみはるものがある。私たちの遠い祖先が活動した跡が、全国で35万箇所あるといわれ、神奈川県でも、約7,800箇所が確認されている。

発掘調査が全国で一年間にどのくらい行われているか、平成８年度の発掘届け件数を統計資料でみると、全国で約12,000件の調査がなされ、神奈川県でも398件の届出があって全国では９位である。これだけ沢山の発掘調査が各県で行われていることは驚きである。このことは毎日60数ヶ所の遺跡の調査が国内のどこかで行われていることになる。このなかから新聞やテレビを賑わす話題が毎日のように提供されているわけである。

これらは何らかの工事に伴う調査がほとんどであるといってもよいので、それだけ遺跡が壊されていることになる。遺跡を保存することはなかなか難しいことである。

上述の発掘調査にかかる調査経費も膨大なもので、平成８年度では全国で約1,240億円が投入されている。これだけの経費が使われて、先人達の遺構・遺物が沢山見つけ出されていることになる。

これらの遺構・遺物は博物館などで展示に活用されているが、出土量からするとごく僅かであるといえる。また、遺跡の整備にしても近年では佐賀の吉野ヶ里遺跡や青森の三内丸山遺跡などが脚光を浴びているが、まだまだ十分とはいえないのではないか。ここ神奈川ではどうかというと、縄文時代では平塚の五領ヶ台貝塚、横須賀の吉井貝塚、弥生時代では横浜の三殿台遺跡、大塚歳勝土遺跡、古墳時代では秦野の桜土手古墳群と横浜の市ヶ尾横穴群、古代では相模国分寺跡、中世では海老名市の上浜田中世遺跡、小田原の石垣城跡と山北の河村城趾などごく僅かである。

遺跡に立って遺跡の様子がよくわかるように整備され、誰でもが内容の理解を得られるようにやさしく整備する努力はまだまだ十分であるとはいえない状況である。たとえば、貝塚ならば貝層断面の露出展示やはぎ取り展示などが考えられるが、整備するには用地買収から始まり、内容把握の調査をした後に整備にかかるわけで、時間と費用がかかる。さらには維持管理の草取りや清掃などの管理費が必要となり大変なことだ。調査に要する経費は膨大なものになっているので、整備された遺跡の上に立って、１ｍ下の地下の姿を想像しながらのんびりと散策するところが多くなることを夢みている。

平成10年度総会の報告

平成10年度神奈川県考古学会総会が平成10年5月30日㈯13時よりかながわ労働プラザで開催されました。当日は新会場ということもあって参加者数が心配されましたが、150名の会員が参加され、まずまずの盛況でした。

先ず寺田兼方会長があいさつし、寺田会長が議長に選出された後、議事に入りました。村田総務担当の進行により白石考古かながわ編集担当より平成9年度の事業報告がありました。その後織笠会計担当の平成9年度収支決算報告に続いて、市川監事の会計監査報告がありました。

また小川総務担当から、平成10年度事業計画案、織笠委員から平成10年度予算案が提出されました。

以上総会審議事項については平成9年度事業報告ならびに収支決算報告、平成10年度事業計画案と予算案についての案件が全て了承されました。

以下議事に沿ってその要旨をまとめておきます。

議事1　平成9年度事業報告

① 平成9年度総会が平成9年6月7日㈯かながわ県民センターで開催されました。その後「'97かながわトピックス」で旧石器時代から中世にかけて主な話題について各講師の講演がありました。120名の参加があり、ほぼ満席になりました。

② 「第21回神奈川県遺跡調査・研究発表会」が平成9年9月14日㈰、小田原市中央公民館ホールで開催。約400名の会員が参加され、大盛況でした。特別講演として静岡大学教授小和田哲男先生が「戦国史研究と考古学の成果」と題しての講演がありました。

③ 研究誌「考古論叢神奈河」第6集の刊行 B5版本文98頁　論文4編、資料紹介2編の内容で700部が印刷されました。

④ 連絡誌「考古かながわ」刊行　13号B5版8頁8月、14号は平成10年に3月刊行されました。

⑤ 考古学講座　テーマは「かながわの古墳－その出現と展開」平成9年2月22日　横浜開港記念会館で開催されました。参加者100名でした。なお、当日かながわの古墳のパンフレットを作成しました。

⑥ 遺跡見学会　1回目平成9年12月6日㈯安藤文一本会委員による案内で山北町河村城の見学が行われました。22名の会員が参加 ダイナミックな堀は勿論ですが、城跡から見渡せる山並みや家並みのすばらしい光景に一同疲れを忘れ見学コースを全員元気に踏破しました。

2回目長野県立歴史館及び国指定史跡森将軍塚古墳を見学しました。観光バス1台をチャータし、自己紹介やら、ビールに舌包みをうつ会員、その他？楽しいひとときを過ごしました。

森将軍塚からの眺めは絶景かなの一言です。

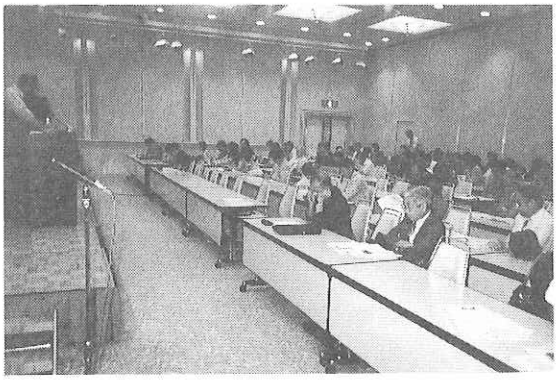
⑦ 役員会の開催は次の通りです。

第1回 平成9年4月25日㈮かながわ県民センター
第2回 平成9年5月31日㈯埋蔵文化財センター
第3回 平成9年7月4日㈮かながわ県民センター
第4回 平成9年9月5日㈮小田原市中央公民館
第5回 平成9年12月1日㈪かながわ県民センター
第6回 平成10年1月22日㈭かながわ県民センター
第7回 平成10年3月24日㈫かながわ県民センター

議事2　平成9年度収支決算報告

次頁のとおり承認されました。

なお、平成10年5月7日市川規平、金子皓彦両監事が書類等を厳正に監査したところ、適正に処理されていました。そのことについては3頁の通りです。



総会の様子

議事3　平成10年度事業計画

①　総会の開催「かながわ労働プラザ」平成10年5月30日(土)13時より。総会終了後、'98かながわ考古トピックスの講演が予定されています。

②　神奈川県遺跡調査・研究発表会が「鎌倉芸術館」にて平成10年11月15日(日)に永井路子氏の特別講演の他に9遺跡の主要遺跡の発表が予定されています。

③　研究誌「考古論叢　神奈河」第7集の刊行をおこないます。B5版100頁 700部を予定、平成10年4月30日刊行することになっています。論文5本掲載予定されています。

④　連絡誌「考古かながわ」の刊行 B5版8頁 15号10年8月刊行を予定しています。16号は11年3月刊行予定しています。

⑤　考古学講座は平成11年3月28日(日)川崎市高津市民館で縄文時代の集落関係についての講座を企画予定されています。

⑥　遺跡見学会　1回目平成10年9月頃　2回目平成11年3月頃予定しています。

議事4　平成10年度予算案

（別表の通りです。）

賛成多数で可決されました。

なお、総会終了後引き続いて「'98かながわ考古トピックス」が開催されました。

旧石器時代　白石浩之

縄文時代　　坂本彰

弥生～古墳時代前期　池田治

奈良・平安時代　國平健三

中・近世　宍戸信吾

の各氏から最新の話題をおりまぜて講演いただきました。ありがとうございました。

平成9年度決算報告

（収　入）　（単位：円）

節	予算額	決算額	比較増減△	説明
会　費	1,302,000	1,215,000	△87,000	9年度会費　3,000×302名＝906,000 過年度分　3,000× 75名＝225,000 10・11年度会費 3,000× 28名＝ 84,000
機関誌等売上	1,436,000	1,522,880	86,880	発表要旨　売上　317,900 会　員　500×186部＝ 93,000 1,200× 21部＝ 25,200 一　般　1,000×162部＝162,000 1,500× 13部＝ 19,500 1,200× 3部＝ 3,600 1,300× 2部＝ 2,600 委託販売 1,500×0.8×10部＝ 12,000 考古論叢　売上　674,300 会　員　1,800× 26部＝ 46,800 会　員　1,500× 90部＝135,000 一　般　2,300× 1部＝ 2,300 2,500× 86部＝215,000 委託販売 2,300×0.8× 5部＝ 9,200 2,500×0.8×133部＝266,000 考古学講座要旨　売上　530,680 会　員　700×183部＝128,100 一　般　1,000×204部＝204,000 委託販売 700×0.7× 2部＝ 980 1,000×0.7×200部＝140,000 1,000×0.8× 72部＝ 57,600
雑収入	5,338	10,706	5,368	預金利子　1,472 寄附金　6,574 送料収入（切手）　1,260 トピックス資料代　1,400
繰越金	1,307,662	1,307,662	0	
合　計	4,051,000	4,056,248	5,248	

（支　出）　（単位：円）

節	予算額	決算額	比較増減	説明
会議費	130,000	37,686	92,314	会議資料代　4,310 会議費　12,896 会場借上　20,480 講師謝礼　0
会誌発行	1,310,000	1,128,320	181,680	考古論叢神奈河6集　印刷代　900,000 考古かながわ13・14号印刷代　118,640 原稿謝礼　5,000 発送・連絡費　104,680
普及啓発	165,000	58,640	106,360	会場借上　0 会議費　2,877 資料印刷代　2,510 発送・連絡代　48,253 保険料　5,000
発表会	850,000	405,273	444,727	発表要旨印刷代　262,500 会場借上　0 講師謝礼　50,000 設営費　92,773
考古学講座	480,000	284,698	195,302	講師謝礼　0 会場借上　12,900 会議費　11,483 要旨印刷代　185,220 発送・連絡代　64,077 設営費　11,018
事務局費	600,000	294,639	305,361	賃　金　232,000 消耗品代　7,173 発送・連絡代　47,920 雑　費　7,546
予備費	516,000	31,500	484,500	慶弔2件　31,500
合　計	4,051,000	2,240,756	1,810,244	

歳入、歳出計
平成９年度収入　4,056,248.－
平成９年度支出　2,240,756.－
執行残高　1,815,492.－
（次年度へ繰り越し）

会計監査報告

平成９年度の収支決算について、金銭出納簿、証拠書類を精査し、預金残金と照合した結果、誤りなく適正に処理されていることを確認しました。

平成10年５月７日

監事　市川規平 印
監事　金子皓彦 印

平成10年度予算

（収　入）　（単位：円）

節	予算額	前年度予算額	比較増減	説明
会　費	1,359,000	1,302,000	57,000	10年度会費 3,000×453名＝1,359,000
機関誌等売上	1,256,000	1,436,000	180,000	発表要旨売上 会　員　1,200×180部＝216,000 会員外　1,500×230部＝300,000 考古論叢７ 会　員　1,500×150部＝225,000 会員外　2,500×150部＝375,000 考古学講座要旨 700×200部＝140,000
繰越金	1,810,244	1,307,662	502,582	
雑収入	1,756	5,338	3,582	
合　計	4,427,000	4,051,000	376,000	

（支　出）　（単位：円）

節	予算額	前年度予算額	比較増減	説明
会議費	130,000	130,000	0	会議資料代　10,000 会議費　60,000 会場借上　20,000 講師謝礼　40,000
会誌発行	1,310,000	1,310,000	0	考古論叢神奈河７印刷代　1,000,000 考古かながわ15・16印刷代　170,000 原稿謝礼　10,000 発送・連絡費　130,000
普及啓発	180,000	165,000	15,000	講師謝礼　50,000 会場借上　20,000 会議費　20,000 資料印刷代　20,000 発送・連絡費　50,000 保険料　20,000
発表会	850,000	850,000	0	発表要旨印刷代　600,000 会場借上　60,000 講師謝礼　40,000 設営代　150,000
考古学講座	530,000	480,000	50,000	講師謝礼　60,000 会場借上　20,000 会議費　[illegible] 考古学講座要旨印刷代　[illegible] 考古学講座記録集　200,000 発送連絡代　40,000 設営代　10,000
事務局費	790,000	600,000	190,000	賃　金　300,000 消耗品代　100,000 発送・連絡費　120,000 会員名簿印刷代　200,000 雑　費　70,000
予備費	637,000	516,000	121,000	
合　計	4,427,000	4,051,000	376,000	

第22回神奈川県遺跡調査・研究発表会開催のお知らせ

このたび、鎌倉市教育委員会と共催、神奈川県教育委員会の後援で、第22回神奈川県遺跡調査・研究発表会を開催することになりました。今回は特に永井路子先生を招いて講演をすることになりました。多数の参加を期待します。

第22回神奈川県遺跡調査・研究発表会
プ　ロ　グ　ラ　ム

期　日　平成10年11月15日(日)
9：30 開場

午前の部

10：00～10：25　**１大和市上草柳配水池内遺跡**　麻生順司（玉川文化財研究所）

10：25～10：50　**２城山町新小倉橋関連遺跡**
櫻井真貴・畠中俊明（かながわ考古学財団）

10：50～11：15　**３川崎市多摩区No.61遺跡**
呉地英夫（玉川文化財研究所）

11：15～11：40　**４南足柄市五反畑遺跡**
安藤文一（五反畑遺跡調査団）

11：40～12：05　**５鎌倉市東勝寺**
菊川英政（鎌倉市教育員会）

12：05～13：00　昼休み

13：00～14：30　**記念講演「東勝寺跡によせて～遺跡が呼び覚ます太平記の世界～」**
講師 作家 永井路子先生

午後の部

14：30～14：55　**６二宮町天神谷戸遺跡**
中田英・高村公之・村上吉正・峰　治
（かながわ考古学財団）

14：55～15：20　**７鎌倉市若宮大路周辺遺跡群** 宮田真（若宮大路周辺遺跡群発掘調査団）

15：20～15：35　休　憩

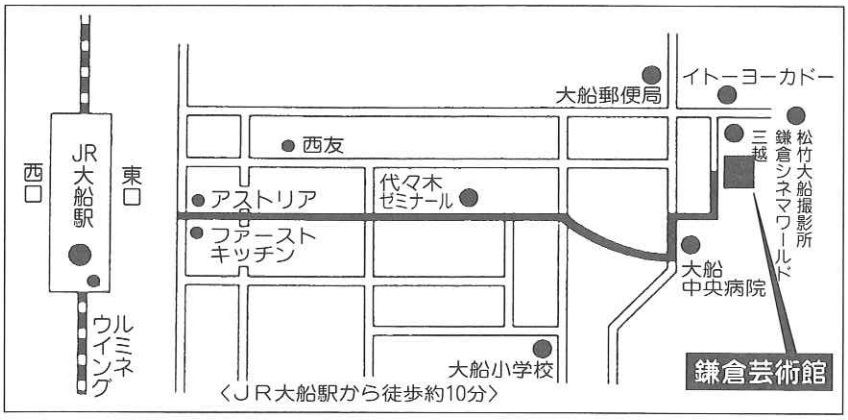
15：35～16：00　8小田原市小田原城三丸東堀跡　諏訪間順
（小田原市教育員会）

16：00～16：25　9中世鎌倉における発掘調査の現状と課題　斉木秀雄
（鎌倉考古学研究所）

閉　　会

誌上発表　小田原市久野下馬下遺跡第Ⅳ地点
小林義典（玉川文化財研究所）
鎌倉市宇津宮辻子幕府跡
原廣志
（宇津宮辻子幕府跡発掘調査団）

会　　場　鎌倉芸術館
鎌倉市大船6丁目1－2
（TEL）0467(48) 5500
（FAX）0467(48) 5600
ＪＲ大船駅から徒歩10分



森将軍塚古墳の見学会に参加して

石倉　澄子

4月4日晴天に恵まれ、バスは厚木駅前を予定通り8時に出発した。行楽シーズンを控えた土曜日にもかかわらず車の流れは順調で、車窓から眺める景色の移り変わりに一瞬を忘れた。アッという間に、あんずの里、更埴市に入った。

目的地の森将軍塚に近づくにつれ、丘の中腹に茶色の埴輪が見え隠れし、大きな古墳であることを感じさせるのと同時に、（あの高い所に登ることになるのか）と、ちょっと不安になった。バスを降りてまず目についたのがゆったりした環境の中に建てられている長野県立歴史館である。最初に役員さんから説明があり、歴史館の展示を見学することになった。広い館内では展示について担当の方の説明を聞きながらの見学である。

『千曲川流域の古墳時代』というタイトルで企画展が催されていた。入り口付近に展示してあった赤い土器、これがまさしく『赤い土器のクニ』の箱清水土器である。以前からちょっと興味があったので、ここでお目にかかれるとは予想外であり、とても感激した。また、発掘調査で確認された水田跡の写真パネルの解説の中では、一辺1.5～2.0mの小区画の水田が存在したことが説明されていた。これらが基になって大規模な水田が営まれ条理の発展と千曲川流域の人々が造った『科野のクニ』が、いかに現在の水田にも大きな影響を与えているかが窺えた。常設展示室では長野県の産業と文化を取り入れた展示がなされ、自然と一体を感じさせる展示であった。常設展示は足早に回り、次は古墳館に向かった。

ここでは館長さんから十数年をかけ発掘調査、復元整備作業を行い、史跡公園として保存・活用を目的としたこと、実物大の竪穴式石室の模型は当時築造されたものと、ほぼ同じ、材料・工法に基づいて復元したことなどの説明を受け

た。特に1,600年前と同じ竪穴式石室を上から覗くことができる設備には圧倒された。

模型を見た後、実際に古墳に登ることになった。道も整備され見学バスが運行されていることがわかり到着時の不安は解消した。曲がりくねった道をバスに揺られ古墳が見える場所に着いた。さらに2～3分ほど歩き雑木林の細い道をくぐり抜けた所で、白い葺石と茶色の埴輪のコントラストも鮮やかな古墳が目に飛び込んできた。やや緩やかな、くの字状の痩せ尾根に巨大な古墳をなぜ造ったのか疑問であった。ゆっくり眺める間もなく、古墳までの坂道を降りた。前方部中央の階段を登り、後円部へと進んだ。古墳の周囲には円筒埴輪・朝顔型埴輪など数種の埴輪が並べられ、古墳の造築時の様子を知ることができる。さらに後円部から一望できる山なみ・善光寺平の雄大さは、大パノラマである。この地に築かれた巨大古墳、森将軍塚は、まさに王の墓にふさわしく権力の強さを象徴させるものであった。

古墳のふもとには竪穴住居址や田んぼ、畑を復元し古墳時代のムラを再現し、古墳周辺には写真やイラストで分かりやすい説明板が数ヶ所に設置され、当時の生活を垣間見ることができた。

初めての県外見学会であり、役員さんの苦労も沢山あったことと思いますが、充実した見学会を経験し、事故もなく無事に帰宅できたことも合わせて感謝いたします。ありがとうございました。

長野県更埴市 森将軍塚古墳

会員の広場 －わたしの研究－

横浜南部相模層群地層包含個体調査について

田代　昭夫

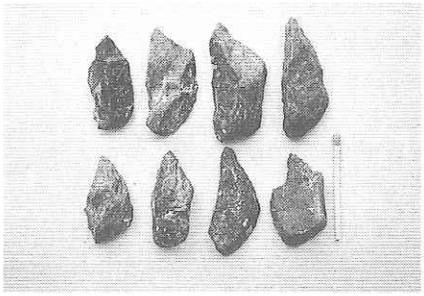
多摩丘陵南部に位置するこの地域は、相模層群と呼ばれる主に箱根火山を供給源とする火山灰と、洪積世に繰り返し起こった氷河期と温暖な間氷期による海面の上昇下降の変化とによってつくられた淡水の影響の強い内湾堆積物、いわゆる不整合で各層を互いに切り合う複雑な地層で形成されている。

今回調査を行った地点は、大岡川の西岸に連なる高度20メートルの上総層群中里層の上位に重なる約5～6メートルの南向きの崖面であり、所在は横浜市南区中里3－7－3割烹旅館中里温泉の敷地内に存在する。周囲の状況は、北側と西側は中里台とその舌状台地によってまた東側は高度52メートルの弘明寺公園に囲まれ、現在海水面は撤退しているが南側が開けた小規模な内海状態を呈している。

調査対象地層の下位約140センチメートルにはこぶし大の礫が40～50センチメートルの厚さで中里層の上位に乗っており、そして上位の調査地層までは水平的で安定した複数枚の地層により覆われている。個体包含層は層厚が26～30センチメートルの一定した厚みを持っており、層の半分位の厚さで集中している部分と層全体に集中している部分とがあり、何れにしてもかなりの密度で包含されていることが判る。

今回調査を行ったきっかけは、昨年7月下旬近畿地方に上陸した台風9号の影響により個体を含んだ崖の一部が崩落し、この結果崩落地層から集中的調査が可能になり、旅館の協力も得られたため実現することができた。

分析・分類を行うために個体の水洗いを行ったところ、個体どうしが互いに固まり合い、また砂等付着物を多く含んでいたためこれらを取り除くのに労力を費やしたが、この段階で次の事柄が観察できた。まず、第一に、河川下流域部または海浜域部で一般的に見られるような自



凝灰岩製等の石器

然礫である円礫が非常に少ない反面、円礫だった当時の自然面の一部を残しながら何種類かの共通点を持つ刃部のようなものを有する個体が非常に多かったことと、次にチャートのような石質では自然の力では到底起こり得ないと思われる窪みを持つ個体が半数以上存在していたことであった。

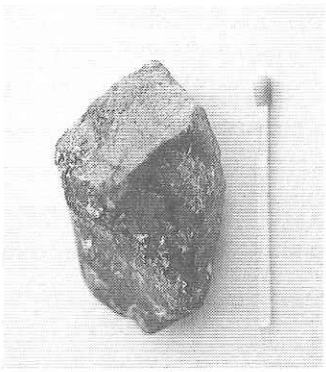
窪みは１個体あたり１箇所または複数箇所に存在し、指先で摘まないと判りにくいゆるやかな曲線の窪みのものもあるが、目で確認できる例えば粘土の表面に箸先で軽く突いたような穴状の窪みを１個ないし複数個あるものが半数以上見られた。中には、円周状に３～５個穴状窪みを作り、中心部分を盛り上げたとも思われる個体が20個前後確認された。更に円礫に１箇所から数箇所窪みを配し、男性器を形作ったとも思われるものが大小10数個発見されている。

チャートは全体の約５割程度であったが、小さいもの程その占める割合が高く認められた。理由は崩落礫の中には唯一自然礫と断定できる平均20ミリ径の比較的小型のチャート礫が97個含まれていたが、このことがこれからの原因の一端を物語っているものと考えられる。

まず始めに、今回見つかった窪みのある石器の使用方法について推測したい。大きさからもいえるが、握るというよりは２～３本の指で摘んで使われるように思われる。なぜならば、対象物に刃部と思われる部分をあてて指先で摘んでみると、指先のあたる個体部分には約７割を越える割合で窪み等の存在が確認されている。このことは、また指先と個体とをフィットさせるための人的行為とも受け止めることができる。

次に製作方法について推測してみたい。個体の中には、打製とも磨製とも考えられない精巧な刃を持つものもあり、また自然現象では到底説明のできない窪み等を高い比率で有していたことを考えると、製作方法の実証が必要になってくるが、黒曜石での実験結果では摂氏1,000度以下の状態でも物理的な力により表面の変化が起こりうることが確認されており、条件が揃えば他の石質でも熱と力を加えることによって石器を作ることができるのではないかと考えている。

更にこれらの石器が何の目的で作られたか推測してみたい。当時の環境を現在の地層から読み取ってみると、近くには内海的な淡水の影響の強い入江が点在し、魚介類、海性植物の採取に恵まれた環境が長く続いたものと想像される。従って、石器の大きさ、刃の形、石器の摘み方から推測すると、二枚貝等の貝柱をはがすために使われたものと考えられる。その理由は、上倉田層の調査でしばしばまがき、ハイガイなどの二枚貝の化石が多く発見されており、そして現在まがき等のむき身を取り出す作業風景を観察すると一層納得することができる。



凝灰岩製の石器

最後に、柏尾川系、帷子川系そして大岡川系の他の支流でも今回見つかったような石器の出土が確認されており、上倉田層と断定できる地層からも２ヶ所で見つかっている。また、今回確認された石棒についても同形、同種のものが柏尾川系の同じような地層から発見されており、窪みを持つ石器とともに今後これらの石器の研究を一層深めていきたいと考えている。

見学会のお知らせ

箱根石仏群と旧街道

・日時　平成10年12月６日(日)11：00

・集合　曽我兄弟の墓バス停

雨天の場合は中止

迫って会員には連絡します。

曽我兄弟の墓→六道地蔵→資料館→双子茶屋→お玉ヶ池→旧街道石畳→旧街道資料館

情報案内

特　別　展

「一乗谷朝倉氏遺跡調査30年記念」　神奈川県立歴史博物館　９／５～10／18休月、祝翌（除土日）、最終火

「埴輪の世界」千葉県立房総風土記の丘９／22～11／３休月（除休）休翌火

「やり　槍－その起源と歴史を探る」笠懸野岩宿文化資料館　８／１～11／３休月（除休）休翌火

「古代末期の東国社会」横浜歴史博物館　10／10～11／23休月（除木）休翌（除休）

「龍門石窟と中原文化」江戸東京博物館　９／29～11／23休月（除木）休翌火

「器財はにわの世界－関東の器財埴輪－」栃木県立しもつけ風土記の丘資料館10／15～11／23休月、祝翌

「女性はにわ－その装いとしぐさ－」埼玉県立博物館10／13～11／23休月、祝翌　４金［除休］

「北九州の貝塚」千葉市立加曽利貝塚博物館　１／31～2／28 休月祝、祝翌火

近代文学館９／27(日)13：00

調査発表会

「三浦半島地区遺跡調査発表会」横須賀人文博物館 11／1(日)10：00

「第22回神奈川県遺跡調査・研究発表会」　鎌倉芸術館 11／15(日)９：00

講　　座

神奈川県考古学会講座「縄文時代の集落を復元(仮題)」川崎市高津市民館３／28　９：30

「インターネットと考古学」神奈川県立埋蔵文化財センター3階研修室11／14　14：00～

「発掘された近世のむら－逗子市池子遺跡群の調査を中心として」神奈川県民センター　ホール11／21(土)14：00～

1998年度新入会員（７月20日現在）

次の方々が新入会員となりました。よろしくお願い致します。

郡司真由美
押木弘巳
高橋信義
小林茂夫
松田理枝
橘　義雄
武井　勝
原　宏美

[redacted]

会員からの伝言

平成９年度の収支決算報告と10年度の予算案の増減について、△印の付け方が今年度は不統一であるとのご指摘がありました。事務局としては、よりわかりやすくなるように検討します。

編集後記

不順な気候と編集の怠惰で刊行が遅くなりました。

田代会員から「会員の広場－わたしの研究」を掲載させていただきました。

礫群の中から出土する加工痕と思われる礫片は、世界的にエオリスとして論議され、また日本でも青森県金木他で出土した擬石器が大きな話題を呼びました。石倉さんの見学会の感想文、余すことなく情景がうかび、参加できなかった会員も感動するでしょう。

考古かながわ　第15号

発　行　神奈川県考古学会
発行日　1998年10月15日
編集者　明石　新、大塚眞弘、土井永好
　　白石浩之、
事務局　東海大学文学部考古学研究室内
　　〒259－12　平塚市北金目1117
　　郵便振替　00240－９－71208
　　神奈川県考古学会
印刷所　有限会社 長谷川印刷